

## 鎌掛(かがけ) 石楠花谷 walk

3.

天然記念物ホンシャクナゲの群落 滋賀県 日野町 2003.4.28.



4.27. 大型連休 滋賀県日野町 鈴鹿山脈 綿向山麓のホンシャクナゲの群落地 鎌掛谷に行ってきました。  
まだ ちょっと早かったのですが、鎌掛谷の山の斜面いっばいに石楠花が咲き誇っていました。  
こんなに群生した石楠花を顔をくっつけて見たのは初めて。  
山に春のシーズンを告げる純朴で清純な大輪の花。  
新緑のやわらかい緑に萌える山をバックに五月を待ちわびて咲く石楠花はやっぱり 山の花の盟主の風格。  
一番好きな花のひとつ 期待どおりの群落にご機嫌でした。



滋賀県 日野町 鎌掛 MAP



滋賀県日野町 鎌掛谷に咲くホンシャクナゲの群落【1】 2003.4.27.





滋賀県日野町 鎌掛谷に咲くホンシャクナゲの群落 【2】 2003.4.27.

### 3.1. ホンシャクナゲの群落 「鎌掛 石楠花谷」 Walk



4.27. 家内の父が亡くなって17年 義父の供養に京都に行く家内に便乗して、滋賀の石楠花を見に行く。

桜が終わって 5月の声を聞くと琵琶湖西岸に連なる比良山や鈴鹿の山々には「石楠花」が清楚ではあるが大輪の花を咲かせ、山に登山シーズンの到来を告げる。

「石楠花」の話になると「カイガケ」の石楠花が一番 それは見事 日本一」と眼を輝かして話す滋賀出身の義父が眼に浮かぶ。

そんな父が「石楠花」の季節になくなって17年。

家内が その父の法事に京都へ行くという。幾度となく聞いた「カイガケ」の石楠花丁度今が満開の候。

思い出したのを機会に朝早く家内に便乗して京都まで行って そこからまだ行った事のない「カイガケ・鎌掛の石楠花 walk」。

地図で調べると鈴鹿山脈 綿向山の麓 日野川ダムの西。この谷を詰めると鈴鹿越え。土山・鈴鹿峠へ繋がる山裾の「日野町 鎌掛」にしっかりと石楠花群生地マークがある。

鈴鹿山脈の北側の山裾から 琵琶湖湖岸にかけての地域は古代から早く



開けた土地で、古代 帰化人・渡来人が多く住み 渡来人の本拠となったところである。学生時代 日野川の奥の古代にその起源を持つ名刹西明寺(今は西明禅寺というらしい)に仏像拝観に訪ねたことがあるがその

近くらしい。

琵琶湖岸の東海道からは随分奥で また 鈴鹿へ抜ける国道1号線からもはずれ、山裾に入らねばならない。その当時は便が悪く、帰りに日野・蒲生・近江八幡まで田圃の中をテクテクもういやというほど歩いた記憶があり、それが俗化を阻んで、今も美しい石楠花の群落を守っているに近い。

日野まで行けば何とかなる。風来坊である。

当時を思い出しながら 京都から草津 草津線で貴生川へ。 貴生川から近江鉄道で日野へ行って、そこから先はタクシー。

京都から JR 草津線・近江鉄道経由で一時間半ちょっとで日野の街。

このあたりは 大阪・京都の通勤圏として 見違えるような新興住宅地に発展。交通事情がすごく便利になっているのもうビックリ。

日野は蒲生氏郷の城下町 日野商人・近江商人発祥の地で以前訪づれた時はこの地方の中心町として人の往来も多く随分にぎわっていたが、今は閑散としていてまったく通りに人影なし。時の流れが移った事をひしひしと感じる。



滋賀県 日野町の家並

2003.4.27.

ここから 臨時のバスが鎌掛シャクナゲ溪にでているのですが、便利悪く タクシーにする。

5/2 からの「日野祭」の曳き山の準備があちこちで進められている。古い商家が建ち並ぶ家並が長く続く街道筋を抜けるとあっという間に山裾の田園風景が広がる。

日野から鈴鹿山系の御在所山を越えて三重県へ向う街道をタクシーで約 15 分 山裾の鎌掛集落に入り、谷筋に入ったところが、しゃくなげ溪入り口。



駐車場と休憩所があり、ここから鈴鹿へ向う道と別れ、シャクナゲ溪谷の細い谷筋が奥に伸びている。

谷の入り口には関所があり、日野町の人達が石楠花の保護のため整理にあっている。

小さな川を挟んで左側には車道 右側には遊歩道が奥に伸び、石楠花群生地への登山口へ伸びている。

ここから先 マイカーはシャットアウト。 川沿いを歩くか バスに乗り換えるか である。

(この鎌掛 石楠花の群生地のある谷は 鎌掛谷 石楠花溪 石楠花谷 など色々な名前がつけられている。また 「鎌掛」と書いて「カイガケ」と読む。義父がカイガケとよく言っていました。漢字と結びつきませんでした。)



## 鎌掛谷 ホンシャクナゲ 群生地

鈴鹿国定公園内の日野市鎌掛 通称「石楠花谷」と呼ばれる標高 250m 前後の山肌の面積 4 万 m<sup>2</sup> に 約 2 万本のホンシャクナゲが群生。  
石楠花谷のような低い山に群生するのは非常に珍しく国の天然記念物に指定されている。また、石楠花の群落で天然記念物に指定されているのは、この鎌掛のホンシャクナゲと群馬県草津町のハクサンシャクナゲ・アズマシャクナゲの 2 箇所のみである。



鎌掛 石楠花谷 ホンシャクナゲ 群生地 2003.4.27.

## ホンシャクナゲ 解説

ツツジ科常緑生木で 4 月下旬～5 月上旬に花が咲く。  
つぼみの時は濃い紅色で花が咲くに従って紅色が薄れ、淡いピンクが広がる。  
先端が 7 つに枝分かれて、直径 4～5 センチの小さな 7 つの花で大輪の花を構成し、それぞれに 14 本のおしべがあるのが特徴だそうである。



# 1. 石楠花 遊歩道を歩いて 群生地への登り口「石楠花池」へ



有名なシャクナゲの群落地「鎌掛」の入り口 石楠花溪。

シャクナゲ溪の入り口から 川に沿って上流へ林の中に遊歩道がつけられ、その川沿いに点々とホンシャクナゲが花を咲かせている。

おそらくは 公園整備として植え替えられたものであろうが、すぐそばで見られて good。



しゃくなげ溪 遊歩道で 2003.4.27.



木々の若葉やわらかい緑と石楠花やツツジの花を楽しみながら 散策路を約 30 分ほど登り降りを楽しんで 小さな砂防ダムが水をせき止めてできた「石楠花池」の縁に出る。バスもここまであがってくる。芽吹きはやわらかい緑と広い川のせせらぎに春の光がかがやき、どこか深山に分け入った山中の河原にでも出たような気分。

一軒の家も看板もなく、わずかに石楠花群生地への登り口を示す大きな石碑と地図を示す小さな看板があるだけで、本当に自然によく配慮されている。







ここから谷は本谷と左股に石楠花の群生地へ伸びる小さな支谷「石楠花谷」に別れる。

新緑に彩られた林の中 さくさくと落ち葉の感触と水の流  
れの音が心地よく耳に聞こえる林の中の散策路

人でいっぱいと思っていましたが、拍子抜けするくらい人  
が少ない。 花よりも人にもまれながらの有名地の縦走路  
を歩くことと思えば正解。

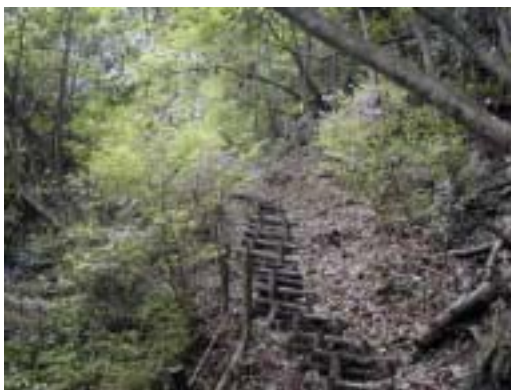
時期がちょっと早いのか 紅色のつぼみと淡いピンクの  
大輪の花の両方がついている。

この頃の石楠花が一番美しい。

柔らかな緑の林の中で花に顔を近づけて 一つ  
一つ枝分かれした花とおしべの数まで見られる  
のが楽しい。

また、真っ赤なつばきの花がまだ残り、ツツジ  
がピンクの花をつけ、春到来を林全体で告げて  
いる。

これも また 楽しい。



ここからがホンシャクナゲの群落自生地への本格的な登りとなるが、よく整備された登山道が続いている。  
バスでここまで来て ここから登り始める人 下へ遊歩道を降りて行く人もいる。



遊歩道 ホンシャクナゲ自生群落地への登り口 石楠花池周辺 2003.4.27.



## 2. ホンシャクナゲ群落 石楠花谷 自生地へ



石楠花谷 ホンシャクナゲ 群落自生地登山口

ホンシャクナゲ 群落

ここから左股の支谷に入り、いよいよ山道を石楠花の自生している群落地へ登って行く。

15分ほど登ると小さな谷を挟んで右の急な山の斜面いっぱい上方へ石楠花が花をつけている。本当に山の斜面に沿って横に繋がっているのを見たことは在りますが、縦方向につながって自生している様にはビックリ。まだ ちょっと時期が早いのか つぼみが多い。

顔を近づけると言うわけには行かないが、美しい。登るにつれ谷を挟んで あちこちで石楠花の群生が見られる。まさに石楠花谷である。

石楠花池から 約 30 分ほどで山の頂上部から谷まで山の斜面全体に群生した石楠花を見渡せる展望所に到着。

ここから先は石楠花保護のため、立ち入り禁止区域でみんなストップである。

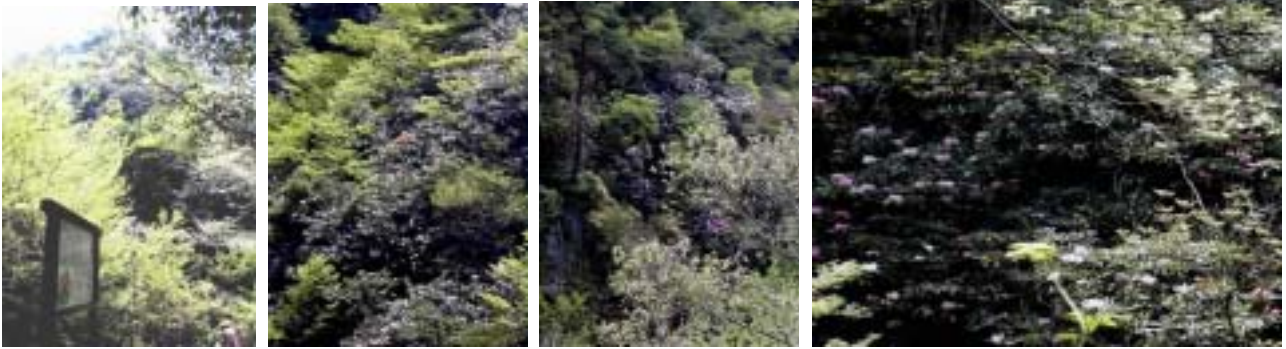


鎌掛・石楠花谷 天然記念物 ホンシャクナゲの群落 2003.4.27.



シャクナゲ群落 展望所からの 群生地 展望





鎌掛 石楠花谷 ホンシャクナゲの群落 群落地展望所より 2003.4.27.

展望所からは谷を挟んで反対側の山の斜面全体に自生するシャクナゲが鈴鹿の山々の芽吹いた淡い緑をバックに見渡せる。一つ一つの花は見えないが、急斜面の山肌を覆い尽くす石楠花に見とれていました。



はじめて 鎌掛 石楠花谷を歩きましたが、石楠花と共に芽吹きを迎えたこの谷の自然も素晴らしい。

本当に 里に近いところで 俗化せずに 静かに里山散策ができるのがうれしい。

一輪一輪 顔をくっつけてじっくり見る石楠花と山を覆い尽くす石楠花の群落の両方見られるところは本当に数少ない。

商魂に走らず、こんなに大きな群落と自然を守り通している日野町の努力も大変だろう。

もう少し奥まで歩いて 稜線まで行きたい気持ちはあるが、群落を守るために奥に入るのを規制しているのもやむ終えない。

地元の人達が言うには 今年花が少ない年。来年はもっと沢山の花がつくと・・・・・・・・。

周りの交通事情が整備され、観光資源の目玉になると荒らされ一変にダメになってしまうことが多い。今日も琵琶湖線 湖西線には比良や湖南アルプス・信楽の山をめざすすごい数のハイカーが乗車して満員。



昨今の中高年のアウトドア ブームはすごい。 しかも マスコミ・雑誌が取り上げるともう そこだけにルール無視で集中する。

地元滋賀では知らない人がいない有名だと聞くのに・・・・・・・・。

まだ 鎌掛の石楠花谷の素晴らしさが知られていないのだろうか。もう住宅はついそこまで押し寄せている。 この群落がきちっと守られることを切実に願わずにはいられない。





「カイガケ・鎌掛」 私にとっては長く聞きなれた「幻の石楠花」。  
こんな近くにこんな素晴らしい石楠花の谷があるなど夢にも思わず。  
なぜもっと早くこなかったのか・・・と。  
淡いピンクの純朴な花が芽吹きを迎えた山いっぱい山の春を告げている。  
本当に淡いピンクの石楠花一輪に感動しました。



2003. 4.27.

日野から貴生川へ近江鉄道のキシミの音を聞きながら

### 3.2. 滋賀県日野町 鎌掛 石楠花谷 ホンシャクナゲ写真 FILE 2003.4.27.

鈴鹿国定公園  
天然記念物 鎌掛谷のホンシャクナゲ群落地



鈴鹿国定公園特別区域にある「鎌掛谷のホンシャクナゲ群落地」は、日野町鎌掛の通称「石楠花谷」と呼ばれる標高250m前後の谷の山肌に面積およそ4万㎡、約2万本ものホンシャクナゲが見事に群生している区域です。

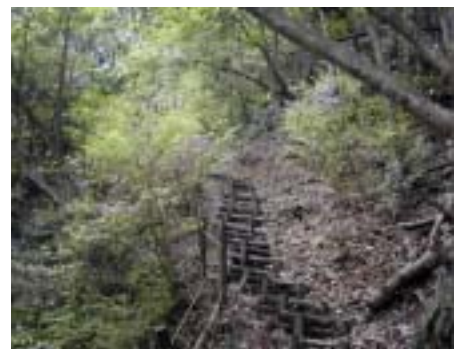
ホンシャクナゲはツツジ科の常緑生木で、県内では比良や鈴鹿の標高の高い山地に自生し、高さ4～5m、枝わかれした先端には花を取り巻くように光沢のある細長い葉が集まっています。

花をつけるのは4月下旬から5月上旬で、つぼみのときは濃い紅色で、花を開くにしたがって紅色が薄れ、淡いピンクが広がっていきます。花の直径は4～5cm、先端が7つにわかれて14本のおしべがある点がこのホンシャクナゲの特徴です。

高い山に自生するホンシャクナゲが、石楠花谷のような低い山に群生するのは非常にめずらしく、昭和6年に国の天然記念物に指定されました。シャクナゲの群落で天然記念物に指定されているのは、群馬県草津町のアズマシャクナゲ・ハクサンシャクナゲの群落と、この鎌掛の2箇所だけです。







鎌掛(かいがけ) 石楠花谷 walk  
滋賀県 日野町 2003.4.28.  
天然記念物ホンシャクナゲの群落

【完】